

8月の県内景況調査結果の概要

1. 主要指標の前年同月比D I 値の動き

令和5年8月のD I 値は8指標中、「景況」「収益状況」の2指標が上昇し、「売上高」「販売価格」「取引条件」「資金繰り」「設備操業度」の5指標が横這い、「雇用人員」が下落となった。

2. 県内中小企業の景況の現状

今月は出荷量・生産量の増加、売上高の増加や、少しずつ明るい状況になってきているとの明るい報告が寄せられた。鳴門市の商店街では鳴門市阿波おどりが4年ぶりに開催され、ワークショップも賑わったようだ。

しかし多くの業種で原材料価格、エネルギーコストの高騰の影響が続いていることや、8月は休みが多いことも影響し、殆どの事業者が収益確保に苦慮している。阿波おどりについては、徳島市も4年ぶりの本格開催となるも天気に恵まれず、売上げに大きくは繋がらなかったようだ。またコロナが5類に移行したことで人流は戻ってきているが、その反面人手不足が深刻化し、最低賃金の上昇が更なる足かせとなっている。その他、燃料価格等補助金の削減もあり、依然として先行きの見通しは厳しい。

経済報告では前月同様、県内、全国共に景況は緩やかに持ち直しているようだ。先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果により緩やかな回復が続くことが期待されるが、中国経済の先行き懸念など、海外景況の下振れが景況を下押しするリスクとなっており、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

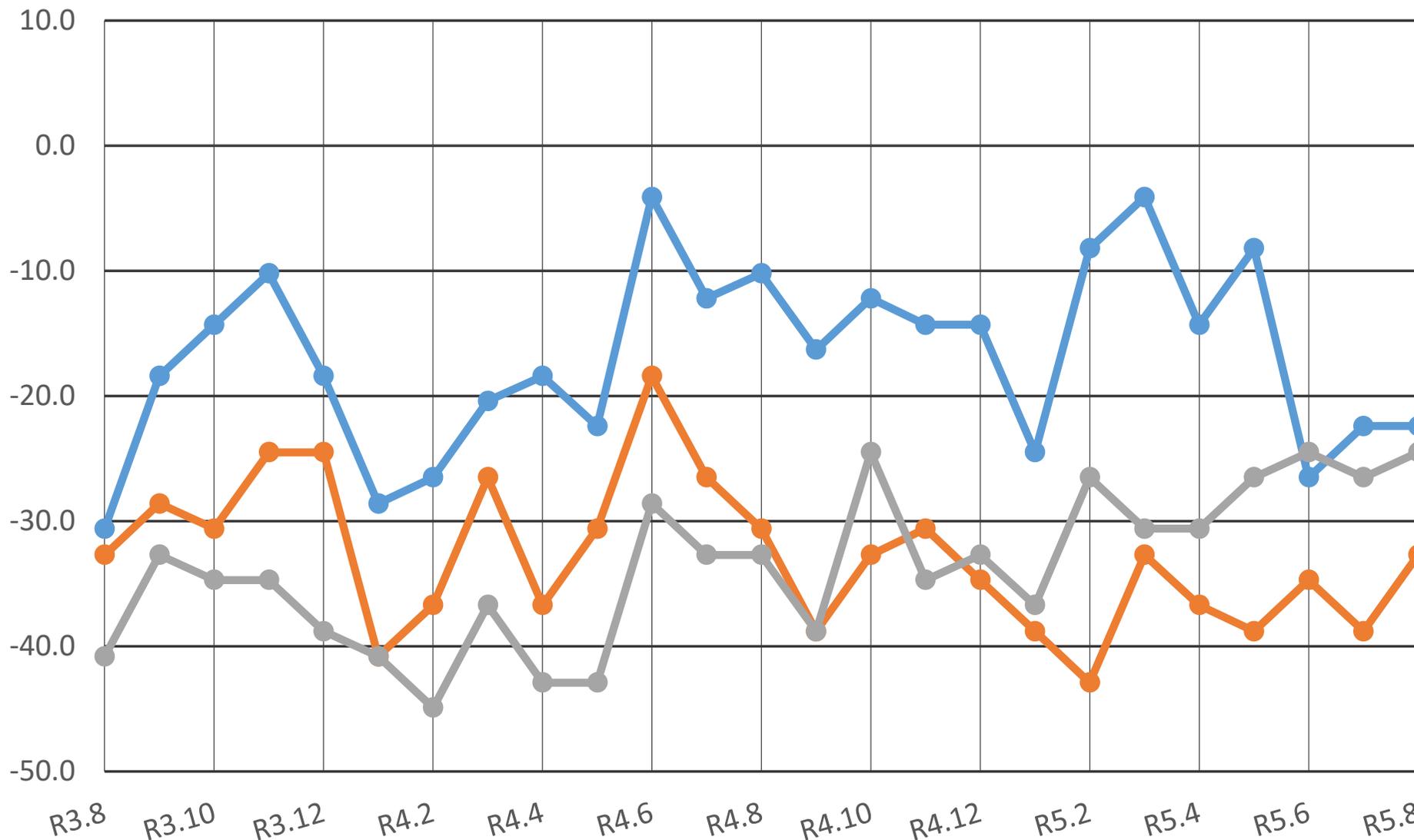
最近の主要指標の前年同月比D I の推移

	R4					R5								前月比 増減
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	
景況	-32.7	-38.8	-24.5	-34.7	-32.7	-36.7	-26.5	-30.6	-30.6	-26.5	-24.5	-26.5	-24.5	2.0
売上高	-10.2	-16.3	-12.2	-14.3	-14.3	-24.5	-8.2	-4.1	-14.3	-8.2	-26.5	-22.4	-22.4	0.0
収益状況	-30.6	-38.8	-32.7	-30.6	-34.7	-38.8	-46.9	-32.7	-36.7	-38.8	-34.7	-38.8	-32.7	6.1
販売価格	22.4	30.6	24.5	24.5	26.5	18.4	26.5	32.7	36.7	32.7	36.7	30.6	30.6	0.0
取引条件	-16.3	-18.4	-16.3	-16.3	-18.4	-18.4	-22.4	-14.3	-10.2	-16.3	-18.4	-10.2	-10.2	0.0
資金繰り	-16.3	-22.4	-10.2	-14.3	-16.3	-16.3	-20.4	-16.3	-18.4	-22.4	-18.4	-20.4	-20.4	0.0
設備操業度	-12.2	-10.2	-8.2	-6.1	-12.2	-14.3	-14.3	-6.1	-8.2	-12.2	-10.2	-8.2	-8.2	0.0
雇用人員	-8.2	-10.2	-6.1	-8.2	-2.0	-10.2	-6.1	-4.1	2.0	-4.1	-2.0	8.2	-2.0	-10.2

※DI値・・・好転（増加・上昇）したとする割合から、悪化（減少・低下）したとする割合を差し引いた値のこと。

前年同月比DIの推移

売上高 収益状況 景況



[景況関連の報告]

【製造業】

<食料品>

1. 味 噌・前年同月比で味噌の生産量は101.9%、出荷量は112.8%であった。前月比で味噌の生産量は93.3%、出荷量は112.1%であり、前年同月期、前期に比べて生産量が増加し、出荷量も3ヶ月続けて増加しており需要回復が進んでいる。依然として原料価格、製造コストの高騰は続いており厳しい状況は続く。
2. 漬 物・資材高騰の影響が大きく、利益を大きく圧迫している。

<繊維・同製品>

3. 縫 製・取引先から安い工賃に対応するのと、日本の労働者不足で人員が確保できないことを解消する為に我々工場は東南アジアから技能実習生を受け入れ、経営を成り立たせています。彼女たちはお金を稼ぐためにとてもよく働きます。しかし、この技能実習生が日本の工場をさらに窮地に追い込むことになっています。技能実習生は日本人労働者以上に給料を支払わなければならないのが現状です。
4. 縫 製・生産数量は、受注数に波がある。諸経費も高値止まりで、製造原価が上昇している。

<木材・木製品>

5. 木 材・業界は非常に悪く、先を見通すことができない。
6. 製 材・依然住宅着工が伸び悩む状況が続き製品の動きは相変わらず悪い。他の建築資材は上がっているのに木材価格は低迷している状況である。こうした中、関東で大規模な外材製材の火災があり、それが木材流通にどう影響するか不透明。
7. 木 材・8月についての木材は、どうも供給量もさることながら需要量が落ち込んだ模様です。お盆休みや休暇が多かったため売上げも先月や先々月と比較した結果、下がったと思われます。

<印 刷>

8. 印 刷・8月は休みが多く、売上高の少ない月になる。今のところは原材料費、用紙、エネルギー費と値上げを繰り返している中、比較的価格転嫁が容認されている雰囲気である。更にシール関連は9月1日受注分より10~15%の値上げとなる。このまま景気が好転し続ければ良いが、現状で続けていくには無理があり、どこかに歪みが出てきそうだ。

9. 印 刷・コロナ以前から8月は休みも多く業績の良くない月ではあったが、今月は多くの組合員の業績が良くなかったようだ。人の動きは活発にはなっているが、ペーパーレス化の波は止まらず、仕事が減ってきていることを実感する。お客様のニーズに応えられる社内体制の構築を進めているが、結果がすぐ出るわけではなく根気強くやっていくしかないようだ。

<窯業・土石製品>

10. 生 コ ン・8月の出荷量は昨年同月比約10%の減少であった。お盆休みもあり昨年の出荷量を若干下回った。今年度は4月からずっと出荷量が低迷しているがこれは公共工事の発注量が少ないことに起因しており、地方の山間部において生コン工場のような公共工事に依存せざるを得ない民間企業は今後経営が困難になっていく恐れがある。これまでも集約化や価格改定をすることでなんとか維持してきたが昨年度のように急激な出荷量の減少には対応がなかなか追いついていけない状況である。今後の出荷次第だが、すでに過去最低だった昨年度出荷量をほぼ下回ることが予想され、その場合はまたしても価格改定を検討しなければならないだろう。

11. 生 コ ン・8月の出荷数量は、対前年同月比26%減であった。要因としては、民需において建築資材の高騰により、予算超過が著しく建築計画が見直され、新規着工が減少している。官公需においても、一定の工事はあるものの現場監督が不足により工期進捗が遅れている。工場での収益については4月より生コン価格の改定(値上げ)をおこない、原材料及び電力費の高騰への値上げり分に対する対応がとられているものの、大幅な出荷数量の減少により経営環境は更に厳しい。

<鉄鋼・金属>

12. 鉄 鋼・業況感には大きな変化もなく、概ね横ばい状況で推移している。需要が増え設備操業度及び売上が伸びているものの、原材料、エネルギー価格の高騰や人件費の増加等に伴い利益を確保することが困難な状況となっています。

13. ス テ ン レ ス・国内外ともに大手企業を中心に企業活動は活発化してきている。電子部品等の納期遅れも一部で改善の兆しがあるものの、一部については、納期遅れが継続している。また、燃料費の高騰や物価上昇に伴うコストUPの状況が継続しており、先行手配や発注先、発注方法の見直し等の対策を行い対応している。

<一般機器>

14. 機 械 金 属・一部に景況感の持ち直しの動きも見られるものの、原材料費、エネルギーコストの上昇等に加え、最低賃金見直しに伴う労務費増加など、更なる不安定要因により、部品の調達難、受注状況の悪化が懸念され、引き続き、先行きが見通せない不透明な経営環境に大きな変化は見られない。また、需要の停滞をはじめ、従業員の確保難などが、依然として、経営上困難な課題として見受けられる。

【非製造業】

<卸売業>

15. 食糧 卸・新米の時期がやって来ました。不作が想定される中、その価格は昨年より大幅な値上がりでスタートしました。電気代、軽油代、包装材料費などの経費の高騰に加え、原材料費の大幅な値上げを価格転嫁し川下に受け入れてもらうしかありません。

<小売業>

16. 機械器具・全国的に物余りの状態になり、小売価格からの値引き(セール)が多く見受けられる。実質的なコストの上昇はあるにも関わらず、価格低下が発生している。
17. ショッピングセンター・8月も好調に売上高が増加しました。前年対比は売上106.3%、客数101.9%でした。客数も5月から回復の兆しを感じるようになり、7月と8月は100%を超えました。業種別には食品が104.1%で特に核店舗のSMが111.5%とがんばっており、次に身の回り品が104.0%、衣料品が99.0%と続いています。来店客数が増えはじめショッピングセンターが賑やかになりつつありますが、1つ懸念されるのはコロナのことです。我々従業員は100%着用していますが、お客様は40%ぐらい着けていません。マスクで100%防げるとは言いませんが、手洗い等の対策を怠ると元の木阿弥になってしまう気がします。
18. 電気機器・8月度も連日の猛暑により空調機・冷蔵庫等の季節商品の動きが順調だったが、TV等映像関連の動きは悪い。秋冬商戦はより積極的な販促への取り組みが必要。
19. 各種商品小売業・店舗別にみると大半が昨年を上回る売上になってきているが、食品関係は物価高の影響を受けているようにも思える。クルーズ船寄港やイベント等でにぎわい、これからも同様に予定が入れば好転も期待されるだろう。
20. 畳小売業・猛暑が連日続き、注文は夏枯れ状態が続いた。一般の家庭も暑いときには仕事を依頼しないようだ。新築現場も8月納品は少なかった。営業用畳も夏休み前にほぼ完了したので少なかった。保育所や高校の茶室など休み中というものが数件あった。

<商店街>

21. 鳴門市・8月は鳴門市阿波おどりが4年ぶりに開催され、大道も演舞場の1つとして大変賑やかでした。京都大学、立命館大学、まちづくり会社と合同で、まちづくりワークショップが開催されました。空きテナントに新しく店が入るかもしれない、交渉を進めております。
22. 徳島市・阿波踊り直前に1店舗が開店した。阿波踊りが雨で2日間中止のような形になったため、売上高は多少増えた程度であった。
22. 徳島市・元々静かな8月。台風、物価高の影響もあり、さらに厳しい状況が続いています。

<サービス業>

23. 自動車整備業・8月度の自動車登録状況の新車販売台数について、登録車の新車販売が好調で、登録台数は対前年度比25.5%増となった。登録車の中古車登録も前年度より9%増、軽自動車の新車、中古車登録ともに約7%増となり、全体では対前年度比14.3%増となった。全国的に見ても国内新車販売は12ヶ月連続でプラス維持しているようで、8月上旬の台風6号によりマツダの2工場やトヨタ自動車と日産自動車の九州の工場が稼働を止めたが、販売実績への影響は軽微だったようだ。収益情報の目安とみている継続検査の台数は、登録車は前年同月より0.6%減、軽自動車は1.8%減となっている。自動車整備業界へのディーラー参入が続く今、地域密着型の整備工場は厳しい状況に置かれている上に、後継者問題も大きな問題となっている。
24. 土木建築業・前年同月と比べて売上高、業界の景況は変わらず、収益状況は悪化している。設計人数通りでは、担当技術員の欠勤等により、設計人員(日数)をクリア出来なくなる積算上の問題や、業務繁多により仕事量を分散させるため設計人員を追加。6月末より別棟での業務を開始し、自社事務所での業務も開始した。積算上、人件費のみ増増額、経費等は変更なし、別棟事務所の経費は持ち出し。自社での作業となるため、来年度から経費率増加が予想される。
25. ビル管理・ビルメン業界でも人件費や清掃資機材費の高騰が続いており、経費の削減や契約先への清掃費の値上げ要請などが急務となっている。阿波踊りや高校総体でホテルや旅館の客室稼働率が上昇した。国内需要はもとより、外国人観光客も順調に増え続けている。日本国内で考える物価上昇の一因となっている円安もインバウンドを後押しする大きな要因となっている。しかし、宿泊者数の戻りに勢いがある一方で不安材料となる人手不足の対応は深刻化が続いている。
26. 旅行業・旅行業は全国的に明るい状況に少しなってきた感じですが。会員の中でもしっかり収益が出ている会員と、いまだ悪化の会員と様々です。新しい旅行商品や顧客を今の時代に合わせて開発している所はそれなりに収益に結びついているように感じます。

<建設業>

27. 鉄骨・鉄筋工事業・Hグレードを中心に今年度中の仕事の確保はできているところが多いが、全体的に見積もりが少なく、来年度の受注見通しが不透明で減少の懸念。しばらく暑さが続く見込みで熱中症対策を継続。溶材値上りの気配で厳しい状況が続く。
28. 建設業・8月の単月では、対前年比の発注件数及び請負額で国、独法、徳島県及び市町村の工事は、減少している。今年の累計では、徳島県発注工事は減少している。
29. 板金工事業・一般住宅は例年通り、順調に上棟されている。
30. 電気工事業・新築住宅口数は126件で、昨年同月比113.5%となった。

<運輸業>

31. 貨物運送業・例年のことながら、8月はお盆休暇で営業日数が減少するため売上げは減少した。反面、軽油単価は前月比平均で7円強の大幅な値上がりとなり、荷主との値上げ交渉が厳しい中、収益の確保ができない状況にある。
32. 貨物運送業・原油価格上昇と円安、補助金の削減が影響し、軽油価格は値上がり続けている。政府は、燃料油価格の激変緩和措置を12月まで延長する方針を決定。年末までの延長でトラック事業者も最悪の事態は回避されたが、原油価格は今後も先行き不透明な情勢が続きそうで、厳しい経営状態が続き、体力は消耗するばかりである。